

日本聖公会

# 大阪教区報



日本聖公会  
大阪教区総務局  
〒545-0053  
大阪市阿倍野区  
松崎町2-1-8  
TEL 06-6621-2179  
FAX 06-6621-3097  
発行責任者  
総務局長 司祭 内田 望

+++++ 第497号 2022年3月20日発行 +++++

## 数字の中に目を向けて

司祭 ヨハネ 古澤 秀利

ルカによる福音書5…10b  
『すると、イエスはシモンに言われた。「恐れることはない。今から後、あなたは人間をとる漁師になる。』」

柳美里さんという作家がいます。とても繊細な作品を書

く作家さんです。「ゴールドラッシュ」や「命」という作品が有名です。その柳美里さんが2月初旬、新型コロナウイルス感染症に罹患し、その時の状況をSNSで詳細に報告されてきました。高熱や体の節々の痛みなど、ご自身の症状を詳細に説明し、「コロナはただの風邪ではない」と発信しました。ある人が柳美里さんの投稿に対して「それは主観だ。データで語っていない」と告げます。それに対して柳美里さんは「小説家の役割の一つは、データ(数値・数量・統計)から、一人の人間を救い出すことです」と返しました。データは確かに大切ですが、一つの数字の中にはひとりの

人間が確かにいて、データがどのように語ろうとコロナの症状で苦しんでいる人が実在するわけです。小説家はそのひとりにこそ焦点をあてる必要がある、と柳美里さんは言うのです。

私たちは毎日、感染者〇〇人、重症者〇〇人、死者〇〇人、100万人あたりの死者〇〇人と多くの数字・統計に触れます。しかし、それらのデータはただの数字ではなく、1万人の罹患者がいれば1万通りの症状があり、熱や喉の痛みに耐える人があり、入院する人がいます。仕事を休まざるを得ない人、家庭内で家族から自分を隔離する場所がなく心を痛める人がいます。キリストに連なる私たちもまた、「データから一人の人間を救い出す」ことを使命の一つとされているはずで、3人の漁師をスカウトしたイエスさまの物語からも、そのことを強く感じるのです。ガリラヤ湖に集まった人々

に、イエスさまは舟に乗って人々に話をされます。話が終ると舟の持ち主であるペトロに「漁をしない」と告げます。不漁の直後でしたが、言葉に従ってペトロが漁をすると二艘の舟いっぱい魚が捕れました。岸辺には群衆がまだ残っていたかもしれせん。そして少なくとも網の手入れを続けていた漁師はペトロやヤコブ、ヨハネの他にもまだいたでしょう。彼らも二艘の舟が一杯になった光景を遠目にはあれ目にしていたのです。にもかかわらず、イエスさまに従った漁師は三人だけでした。たった三人でしうは感じなかったのだと思います。「この三人が来てくれた!」いや、「このペトロが来てくれた」「このヤコブが来てくれた」「このヨハネが来てくれた」と一人ひとりの応答を心から喜ばれたのではないのでしょうか。それは、弟子たちがイエスさまを見捨てたのち、イエスさまが十字架に架けられ三日後に復活されたとき、まっ先に弟子たちを訪れたことから見て取れません。弟子たちを裁くためでは

なく、彼らを慰めそして励ますために訪れたのですから。私たちはデータではありません。数字の集合体ではないのです。確かに存在する一つの人格です。イエスさまがペトロを漁師の一人として見るのではなく、「ペトロ」その人として出会ったように、「あなた」にイエスさまは声をかけてくれました。だからこそ、キリストの働きに参与する私たちも、多くの数字の奥にいるはずの一人ひとりに心に向けて、祈りそして行動をしていきましょう。

(大阪聖愛教会牧師)



### 大阪教区婦人会 被献日礼拝

2月2日(水) 午前10時30分から、大阪聖ヨハネ教会にて大阪教区婦人会被献日礼拝が開催されました。大阪府にまん延防止等重点措置が発令される中、参加者を1教会3人に限定しての開催となりました。参加者は教役者8人、信徒36人でした。



ルカによる福音書によると、産後の清めの期間が過ぎたヨセフとマリアは、イエス様を初子としてお献げするために神殿に連れていかれました。この時の出来事を記念して祝う日が被献日です。日本聖公会婦人会の創立記念日とされ、毎年教区婦人会では被献日礼拝をお献げしていま

す。今年も、司式を磯晴久主教、説教を聖贖主教会牧師・博愛社チャプレン小林聡司祭が担われました。

小林司祭は説教の中で、博愛社の創立者の一人である林歌子の人生を、福音書に登場する女預言者アンナに重ね合わせられました。貧しさの中で、痛めつけられ、尊厳を奪われていた女性や子供たちを励まし続けた林歌子の人生は、「多くの人たちの見てきたものとは違う、神様の幻を見る」ことができた人物」という意味で女預言者だと小林司祭は考えられました。また乳児であつたイエス様を祝福したアンナは、新約聖書に登場する唯一の女性の預言者でした。

教区関係教役者の逝去者記念聖餐式には、女性の宣教師や伝道師の名前が憶えられています。しかし、結婚し姓が変わってしまった、その足跡を追うことができない女性の教役者が多くおられるそうです。林歌子は結婚しても同じ名前を名乗り、社会事業家として多くのことを成し遂げられました。女預言者アンナは、弱く消えそうなアシエル族を、その信仰によって思い

起こさせた人物です。多くの名前を憶えられない女性の代表として、林歌子とアンナはその名を記憶されています。

「あなたは名を奪い取られた人々を清くするために女性の預言者を遣わしてくださいました。その方々を通してイエスに従うことの喜びと恵みを教えられます。どうか私たちもイエスと共に、イエスが共に歩まれた人と共に、イエスが私たちと主に歩まれていることを信じ、聖霊の息吹を注いでください」とお祈りされました。

とてつもない苦勞を乗り越え、イエス様のみ業をなしてきた女性たちを思うとき勇気が与えられます。私たちが小さなことでも関心を持つこと、愛を込めること、チャレンジをすること、このようなことが教会生活の中でできないでしょうか。

当日に献げられた献金は164,130円で、日本聖公会婦人会に集められ、教区婦人会の学び、コアの働き、聖職者や神学生の学び等に用いられます。

カタリナ 早川 文子  
(石橋聖トマス教会信徒)

### 「キリスト教一致祈禱週間」 共同礼拝に参加して

1月18日(火)、キリスト教一致祈禱週間の中、大阪カテドラル聖マリア大聖堂で行われた他教派との共同礼拝に参加しました。礼拝には、日本聖公会をはじめ、カトリック教会、日本基督教団、日本福音ルーテル教会の聖職者と信徒が集まり、司式は枢機卿前田万葉大司教、説教は内田望司祭でした。



テーマは「東方で星を見て、拝みにきた」。顕現日に読まれる聖書の箇所から取られています。

内田司祭は説教で、「神さまは、ご自分を現すお披露目を輝く星で指し示し、その意味を読み取った3人の博士だけが、その星に導かれて、神さまが現している方、イエス・キリストに出会うことができました。私たちイエス・キリストを信じているすべてのキリスト者が輝く星を見た時、神さまが私たちに語りかけてくださっていることを感じ、神さまの愛

を見逃さないようにしなければなりません」と語られました。今まで何気なく見ていた輝く星に神さまの愛を気づかせてくださいました。

礼拝の中で、各教派がそれぞれの代禱をささげました。聖公会は世界のすべての難民と故郷を追われた人々のため祈りました。他教派の方々と共に祈ることができ、感謝のひと時でした。

共同礼拝は、2018年に始まり、今年で4回目とのこと(昨年はコロナ禍のため中止)。参加者は30名ほどでした。来年はもっと多くの人と共に祈ることができると願います。

帰路、東の空を見上げると粉雪舞う昼間のどんよりとした雲が晴れ渡り、今年一番の小さい(地球から遠い)満月が輝いていました。その右にはそれにも増して光り輝く星が私に神さまの愛を示してくださっていました。

ユニケ 山本 久美  
(大阪聖愛教会信徒)

羊だより  
聖書は不思議な信仰の書

神様の御許に凱旋されて9

年になります。福田光宏司祭は、「聖書は超常識の書である。」ということをよく言っておられました。最初は、「そうかな」と思う程度で、あまりピンと来ていませんでした。が、最近、少し福田司祭の思いがわかってきました。「超常識」とはまだ言えませんが、聖書は人の思いを遥かに超えた不思議な信仰の書です。たとえば、2月20日の主日の旧約聖書です。ヨセフ物語から選ばれておりました。(創世



編集後記

教区の新たなスタートを迎えるにあたり、戻るのではなく進むことをイメージいたしました。表紙を新しいデザインに変えました。これは堺聖テモテ教会の信徒、小池順司さんのお力添えのもと実現したもので、全部で7種類あります。



記45・3以下)ヨセフのことばをお聞きください。「わたしはあなたたちがエジプトへ売った弟のヨセフです。しかし、今は、わたしをここへ売ったことを悔やんだり、責め合ったりする必要はありません。命を救うために、神がわたしをあなたたちより先にお遣わしになったのです。」私たちは言葉を失うくらいに驚きました。

ヨセフはヤコブの息子で、年寄り子でしたので、父から兄たちが嫉妬するぐらいかわい

今月号においては芦屋聖マルコ教会、尼崎聖ステパノ教会、石橋聖トマス教会が描かれたデザインとなっております。これらの素敵なイラストは、3月現在大阪教区に存在するすべての教会をご用意しており、毎週違う教会が、表紙をかざります。旧デザインは小池主教様がデザインなされたもので完成された素晴らしいものですが、それを受

がられておりました。更に、ヨセフは変わった子でした。よく夢を見る子で、その内容が、また兄たちの怒りや嫉妬心に火をつけました。「畑でわたし

が束を結わえていると、いきなりわたしの束が起き上がり、：兄さんたちの束が周りに集まって来て、わたしの束にひれ伏しました。」兄たちは、「お前が我々の王になるというのか。」と怒り出し、それが憎しみにまでなりました。ある日兄たちはヨセフを穴に放り込み、殺そうとします。

しかし、ヨセフは通りかかった商人たちに穴から引き上げられ、別の商人に売り飛ばされ、奴隷としてエジプトに連れて行かれてしまいます。

け継ぎ、より素晴らしいデザインを仕上げてくださったことに感謝したいと思います。新たな世代へと受け継がれ、神の宣教を推し進めるアイコンとしてどうぞ新しいデザインを受け入れていただければ幸いです。

その後、ヨセフは波乱万丈の人生を歩み、なんとエジプトの王に次ぐ高官になります。そして数年後に、大飢饉が起ころのですが、ヨセフの夢解きと知恵により、エジプトでは大飢饉に耐えうる備えができています。

一方、飢えに苦しむヤコブは息子たちを、食物を求めてエジプトへ旅立たせます。まだまだ多事多難なのですが、兄たちとヨセフの再会の場面が、先ほどの聖句だったわけです。人生には、なぜこのような苦労や苦しみを負わなければならぬのか、理不尽さに倒れそうになることが起ります。

しかし、ヨセフ物語は、時から年齢を出したくない方もいらつしやるかもしれませんので、諸記念報告にて記載がある場合のみ掲載し、報告に記載がない場合、年齢はお載せしません。そのほか、ご意見や新しいデザイン、記事などありましたら、2月号記載のメールアドレスまで送付いただけます。思います。

広報委員長 金山 将司

経て「なぜ」という疑問が、解き明かされる時がやってくることを教えています。「今までの苦労はこの日のためであったのか」と、ヨセフの心の奥深くにあった「なぜ」が解き明かされます。ヨセフの背負わされた苦難は、父ヤコブをはじめ、兄弟姉妹たちに留まらず、世界中の人々を飢餓から救うためだったのです。

私たちの常識ではわかり知ることのできないことを、聖書は教えてくれます。「なぜ」と問うことの多い人生ですが、神さまを信じて、誠実に歩みましょう。

聖書は、人の思いを超えた不思議な信仰の書です。

(主教アンデレ)



大阪教区関係教役者  
4月逝去者記念聖餐式

4月13日(水) 10:30~

- 1日 執事 中西 義之 (1909)
4日 主教 ジョン・マキム (1936米)
6日 司祭 ミカエル 村岡 明 (2019)
7日 司祭 ジョージ・ウイリアム・ローリングス (1933英)
司祭 名出 武 (1945)
15日 伝道師 織間 小太郎 (1934)
司祭 ベニヤミン 池沢 駿太郎 (1956)
司祭 ペテロ 数本 竹次 (1979)
司祭 ジョン・キャメロン・マクドナルド (1993加)
17日 司祭 パウロ 藤倉 恒雄 (2001)
20日 宣教師 メアリー・ジェーン・オクスラッド (1922英)
司祭 ステパノ 井上 俊一 (1983)
21日 宣教師 エレノア・メアリー・フォス (2002英)
23日 司祭 早川 喜四郎 (1943)
28日 主教 ジョン・チャールズ・マン (1967英)

\*教役者逝去記念聖餐式は、毎月第2水曜日午前10時30分  
から、川口基督教会で行われます。ご関係の有無にかか  
わらず、どうぞ自由にご参加ください。

【常置委員】会報 1/31臨時  
協議事項  
①大阪聖パウロ教会からの要  
望により、当該教会の件に  
付き原田佳城司祭との面談  
を行った。

②京都教区との合併議案否決  
を受けて、大阪教区の今後  
について協議した。

2/14  
第5定期  
I. 主教報告及び諸報告  
\*コロナ関連対応について、  
注意を怠らず現在の対応を  
.....

継続する。  
\*2月8日(火)~10日(木)に  
大阪で行われた主教教会は無  
事終了した。

\*第1回宣教局会議が3月7  
日(月)に開催される。  
II. 協議事項及び主教諮問  
\*主教座聖堂参事会・聖週礼  
拝の確認を行い、献金先を  
承認した。

\*2021年度の一般会計決  
算について了承した。  
\*3月の臨時教区会の準備に  
ついて協議した。現時点で  
対面での開催とする。

\*臨時教区会での常置委員  
提出の議案について協議し  
た。

\*教区の今後についての継続  
協議  
臨時教区会で示す「合併議  
案否決の分析」を事前に関  
係者に送付し意見を求める  
こととする。

\*教区内での講壇交換を今年  
実施する。  
\*教区神学生の現状を確認  
し、今後について協議した。  
\*4月以降の人事の公示案に  
ついて協議し承認した。

逝 去 者

石橋聖トマス教会(2月5日)

ナオミ 武田 富子 (2月11日)

ハナナ 山原 輝子 (2月11日)

ルデア 片山 春美 (1月31日)

川口基督教会 (2月18日)

マリヤ 松山 和子 (2月19日)

アキラ 水嶋 保 (2月19日)

ヨブ 山中 眞雄 (2月6日)

クララ 木原 春子 (2月6日)

聖ルカ教会 (2月7日)

河野 君子 (2月7日)

京都聖ヨハネ教会在籍、  
聖ルカ教会で信仰生活

沖縄教区 (2月9日)

退職主教 ダビデ 谷 昌二 (2月9日)

魂の平安をお祈りします

主教巡回予定 (4月)

- 3日 石橋聖トマス教会
10日 大阪聖ヨハネ教会

17日 聖ルカ教会  
24日 大阪聖パウロ教会

お詫びと訂正

○巻数誤496→正495号  
○前号4頁 3月逝去者記念  
「伝道師 ハナナ 田中 ヲハ  
ナ 1983年3月23日」  
「伝道師 姉川 鶯声  
1989年3月24日逝去」  
が洩れておりました。  
関係者の方々にお詫びして、  
訂正いたします。(編集部)

《聖週の礼拝》

- 4月14日(木) 11:00 聖木曜日 礼拝  
聖油聖別・司祭按手の約束の更新  
16:30 聖木曜日  
聖餐制定の聖餐式  
4月15日(金) 12:00 聖金曜日  
主の御苦しみの黙想と陪餐

主催:主教座聖堂参事会  
場所:川口基督教会